

「さあ、みんなで、考えよう」

「大^{だい}火^か災^{さい}の原因^{げんいん}は？」クイズ！

1952年(65年前)、前川区で火事がありました。10数戸を灰にした大^{だい}火^か災^{さい}になってしまいました。屋間^{やま}でありながら、これだけの火災^{たいせつ}になってしまった要因^{よしん}はどこにあると思いますか

「さあ、みんな^{みんな}で、考えよう^{かんがえよう}！」

人^{じん}権^{けん}メッセ^{メッセ}ージ^{ージ}募^ぼ集^{しゅう}

～三^み重^え県^{けん}人^{じん}権^{けん}セ^セン^ンター^{ター}よ^よい～

三重^{みえ}県^{けん}では、差^さ別^{べつ}の^{あか}ない^す明^{みや}る^く住^じみ^よい^し会^{かい}の^{じつげん}実^じ現^{げん}を^{とうと}め^ざし、人^{じん}間^{かん}の^{じゆう}尊^{じゆう}さ^や自^{じゆう}由^{びゆう}と^{たいせつ}平^{たい}等^{せつ}の^{だいせつ}大^{だい}切^{せつ}さ^を訴^うえ^るた^めに、身^み近^{ぢか}で^{かん}感^{たい}じ^たた^いげ^んした^でき^{ごと}と^から、自^じ分^{ぶん}自^じ身^{しん}ど^う考^{かん}え、ど^う行^{こう}動^{どう}す^るか^を表^ひ現^{げん}した「人^{じん}権^{けん}メッセ^{メッセ}ージ^{ージ}」を募^ぼ集^{しゅう}して^いま^す。形^{けい}式^{しき}は^{じゆう}自^{じゆう}由^{びゆう}で^おお^むむ^ね100字^じ程^{りやう}度^どで、自^じ作^{さく}の^{みえ}未^み発^{はつ}表^{ひょう}の^{もの}に^かき^かり^ます。5月^ご1日^{にち}か^ら募^ぼ集^{しゅう}が^はじ^まり、3月^{さん}15日^{にち}ま^でが^おお^むむ^ね期^き間^{かん}で^す。詳^{しょう}し^くは^三重^え県^{けん}人^{じん}権^{けん}セ^セン^ンター^{ター}の^ホー^ムペ^ージ^をご^覧い^ただ^くか、電^{でん}話^わ(059-233-5511)で^おた^ずね^下さ^い。

6月、7月の講演会や研修会の案内

- 6月8日(木) 青山文化センター人権・解放講座 (19:30～21:00) 青山文化センター
「障害者差別解消推進法施行から1年」(稲垣満佐代さん)[反差別・人権研究所みえ]
- 6月9日(金) 第30回「せいかつ」実践交流会 (終日) 三重県総合文化センター
- 6月17日(土) 青山同和教育推進協議会総会・記念講演会 (15:00～) 青山福祉センター
「水平社創立の思想に学ぶ」(駒井忠之さん)[水平社博物館]
- 6月22日(木) 青山文化センター人権・解放講座 (19:30～21:00) 青山文化センター
「セクシャルマイノリティの人権課題」(仲岡しゅんさん)[な^なに^わば^し国^{こく}際^{さい}合^{ごう}同^{どう}法^{はう}律^{りつ}務^む所^{じよ}]
- 6月23日(金) 大山田同和教育研究会総会・記念講演会 (20:00～) 大山田農村環境改善センター
「性の多様性について考える」(吉岡隆行さん)[反差別・人権研究所みえ]
- 6月27日(火) 上同研連続講座(第1回) (19:30～) ハイトピア伊賀5階
「『部落差別解消法』を読む」(奥田均さん)[近畿大学・人権問題研究所]
- 7月7日(金) いがまち人権センター解放講座 (19:30～21:00) いがまち人権センター
「LGBT(性的少数者)当事者に掛かる社会的課題と今後について」(田中一歩さん、近藤孝子さん)[に^にじ^いろ^ろi^{ru}(アイ)]
- 7月9日(日) ライトピア人権フェスティバル (13:30～) ライトピアおおやまだセンター
「人権コンサート」(ドリームドアーズ)
- 7月14日(金) 青山文化センター人権・解放講座 (19:30～21:00) 青山文化センター
「家庭や地域での男女共同参画について」(石垣弘美さん)[フレンテみえ]
- 7月22日(土) 全人教教育課題別研究会 (10:00～16:30) 三重県総合文化センター
午前：全体講演「地域福祉と教育の心を問う 社会化から地域化へ」(西野紳一さん)
午後：分散会(柘植保育園から「就学前からの学力保障」の報告あり)

クイズ解説編

13年前に伊賀町役場が発行した「伊賀町史」の169ページに次のように書かれています。

昭和27年(1952)3月、前川区に15戸17棟85人が焼け出される大火事があった。家々の密集と、道路が狭く用水の便が悪いのが大火の原因であった。

当時の国内の様子を「オールロマンス事件」より考える

京都市の職員が大衆雑誌「オールロマンス」の1951(昭和26)年10月号に「特殊部落」と題する小説を掲載しました。内容は、作者が環境衛生指導員として勤務する中で知ったある地区の実態を描いたものでした。当時の部落解放全国委員会(のちの部落解放同盟)京都府連は、この小説の内容が誤った認識を助長するとして、その責任を追究しました。作者である職員個人の責任ですまそうとする京都市に対して、誤った認識を助長するような地区の低位な生活実態に対し何ら対策もとらずに放置してきた京都市にこそ最大の責任があるとして、「行政の責任」を追究しました。京都市の地図をひろげ、不良住宅の密集しているところ、水道のないところ、下水施設のないところ、消防自動車の入れないところ、衛生事情の悪いところなど行政的に問題のある地域に印をつけさせました。すると印をつけたところは被差別部落に集中していました。行政の差別的な姿勢が明らかになり、京都市は問題の深刻さと行政的責任を認めざるをえなくなりました。この事件は、以後の地方公共団体の、同和行政への取組を推進させるきっかけとなり、その後の解放運動を大きく発展させる第一歩となりました。

いがまち人権センターで柘植地域人権啓発合同フィールドワーク開催

2017年5月20日(土)にいがまち人権センターおよび前川区内で柘植地域12区からの20代、30代を含む47人の参加者で人権フィールドワークを行いました。まず、いがまち人権センターのホールで、いがまち人権センターの西岡裕崇さんからの



説明を受けました。前川区の移り変わりや状況、いがまちで起こる差別事件の概要、いがまち人権センターの役割、取り組みや活動内容などをうかがいました。そのあと、2班に分かれ、前川区内を歩き、西岡裕崇さんと中村尚生さんから説明を受けました。1952年の前川区の大火事では区内の道が狭く、

消防車が入れる道幅がありませんでした。昔の前川区の道幅が残されています。写真の手前側は昔の道幅、真ん中より上は倍以上に拡張された道幅です。フィールドワークではその道幅を確認しました。同和对策事業が行われた経緯と必要性についても考えました。



文責・橋本浩信